



やよいじだい

弥生時代には、なぜ身分の差ができたの



米づくりの発展が、富の差を生み、それが身分の差になっていったのだよ。

米づくりの発展が、富の差を生んだ

弥生時代には、木製のくわ、鉄製のかま、石ぼうちょうなどの農機具がつくられて、米の生産量が増えました。その生産量が、1年間食べるのに必要な量をこえ、余分な量を貯えておくことができるようになると、米づくりを手広く行って、たくさんの米を貯えることができる人々が現れました。むら人の間に、富の差が生まれたのです。これらの人々は、貯えた米の一部を、中国や朝鮮半島から船で運ばれてきた青銅器と交換し、それを自分の墓にうめるような有力者（豪族）になっていきました。

有力者が支配者になっていった

有力者は、米などの生産物の取りあつかいや、お祭りの指導、戦いの指揮などを通じて、ますます力をつけ、大きな住居や墓をつくるようになりました。弥生時代の終わりごろには、有力者の住居・墓と、一般の人々の集落・墓が分かれてきました。有力者は、自分の大きな住居や墳丘墓（土や小石を積み上げた墓）をつくるときに、その地域の住民をかり出して働かせることができるほどの、力をもちました。こうして、支配する人と、支配される人という、たがいに対立する関係、つまり、身分の差（階級）ができたのです。

古墳は、昔その土地に強い豪族がいたことを示しているのよ。

